

株式会社イトーヨーカ堂
株式会社セブン-イレブン・ジャパン

『アイワイバンク銀行』営業免許の予備審査終了について

株式会社イトーヨーカ堂及び株式会社セブン-イレブン・ジャパンが昨年11月6日付けで申請しておりました『株式会社アイワイバンク銀行』の銀行営業免許の予備審査が、本日終了いたしましたのでご報告申し上げます。

これにより、株式会社イトーヨーカ堂と株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、今月中に「アイワイバンク銀行」の設立を行い、営業免許の取得後、本年5月中の開業を目指します。

【会社概要(予定)】

1. 名称 株式会社アイワイバンク銀行
(英名: IYBank Co., Ltd.)
2. 本店所在地 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号
丸の内センタービルディング
3. 代表取締役社長 安齋 隆(現 株式会社イトーヨーカ堂 顧問)
(就任予定)
4. 取締役 9名
5. 資本金
・設立時 202億500万円
(資本構成) 株式会社イトーヨーカ堂 51%
株式会社セブン-イレブン・ジャパン 49%
・本年度中に資本金約600億円とする資本強化を予定
6. 従業員数 当初約130名(パート社員含む)
7. 業務内容
 - 1) 開業当初は、普通預金の入出金、残高照会、振込というATMを通じたサービスを展開する。
 - 2) 広範囲に展開中のグループ店舗へ設置するアイワイバンク銀行ATMは、原則24時間365日使用できることによる利便性を商品性のベースとしていく。
 - 3) 銀行以外の金融機関(証券会社、クレジットカード会社、生保・損保等の各企業)との連携により、ATMサービスの機能拡大を予定。

4)イトーヨーカドーグループを母体としたリテールバンクとして、カード戦略を展開し顧客サービスへの付加価値を高めていく。例えば、グループやお取引先を含めた「ポイント制」等のカード戦略を展開。今後、アイワイバンク銀行口座を軸としたデビットカード等の多機能カード戦略も検討していく。(ICカードの方向感をにらみつつ検討していく)

5)お客様の利便性強化として、インターネットバンキングについても視野に入れ検討している。

8. 開業

平成13年5月中を予定

9. ATMの設置

平成14年春迄に約3,650台、5年間で約7,150台、以後順次拡大予定

(お問い合わせ先)
株式会社イトーヨーカ堂広報室
03-3459-3056

添付資料

アイワイバンク銀行設立の背景及び趣旨について

【1. 新銀行設立の背景】

1. 外部環境の変化

(1) IT化の進展

近年の流通業界においては、IT技術革新の進展による流通チャネルの多様化及びパソコンや携帯電話に代表されるインターネットへのアクセスチャネルの増加に伴う決済手段の多様化が見られます。今後、経済や社会のIT化が進むにつれ、こうした傾向はさらに強まり、消費者の利便性に寄与すべき流通業界においても金融との融合の流れは加速していくと考えられております。

(2) 顧客ニーズの変化

現在は、経済社会環境や生活インフラの変化等によって、24時間いつでも人が活動しており、同時に、多くの消費者にとって銀行口座からの預金引き出しや、各種支払の口座振込といった銀行サービスの利用が以前にも増して日常的になってきております。今後はIT化の進展等によってますます銀行サービスへの期待及び利用頻度も増加していくものと考えられます。

2. IYグループの事業基盤

(1) 全国規模の店舗ネットワーク

IYグループは、約1万店という国内最大規模の店舗ネットワーク、営業基盤を持ち、地域生活に密着した場所に展開している点で、「お客様のご近所」にある店舗と特徴付けられるといえます。

(2) お客様からの信頼性

IYグループは、時代のニーズに合った小売業のあり方を常に追求し、POSシステム等の時代を先取りした経営手法の導入により、日常生活に直結する商品・サービスの提供ならびに顧客ニーズに的確に対応してきた点において、消費者の生活に大きく貢献してきた企業グループの一つであると自負しております。

(3) 強固な財務体質

IYグループはその効率的な経営手法等により、強い財務体質を持つ有数の企業グループとの評価をいただいております。全産業との比較においても優良なパフォーマンスを示してきております。一例ですが、株式会社イトーヨーカ堂ならびに株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、日本の主要格付け機関より最上級の格付けを取得しております。

【2. 新銀行設立の趣旨】

1. 信頼性に基づいた「サイフ代わりの銀行」

IYグループは、コンビニエンスストアであるセブン-イレブンの展開等を通じて「身近で便利な場所」となることを目指してまいりました。気軽に身近且つ便利な「サイフ代わりの銀行」の提供者となるという発想もその一環であります。当グループの長年にわたって培ってきた信用力を活かし、お客様にとって安心してお使いいただける「サイフ代わりの銀行」を目指してまいります。

2. 経営の効率化と共存共栄

もとよりIYグループは、合計約1万店に及ぶ店舗という物理的チャネルならびに国内最大規模の店舗網をつなぐネットワーク、さらには各店舗の運営を支えるインフラ体制とノウハウを有しております。これらのチャネルを利用することにより、アイワイバンク銀行の事業コストを大幅に削減することができます。また、当グループでは、これらのチャネルや事業インフラを広く開放し、他の金融機関との提携に係る事業スキームを構築することで、双方における事業の効率化ならびに共存共栄を図ることもできると確信しております。

3. 経営責任・戦略の明確化

IYグループ自らが「銀行」を設立するに至った理由として、経営の独立性を前提に、お取引先を含め、IYグループとして平仄を合わせた経営展開をしていくことを重視した点が挙げられます。すなわち、新規に銀行営業免許を取得し「銀行」を設立することで初めて、「経営としての顔」とも言うべき経営責任や経営戦略を提示できる、また、統一的な経営思想に基づいた事業の展開も可能である、と考えております。よって、流通企業グループがその母体となって新しいコンセプトの金融サービスを開始することによって、その事業の付加価値を高め、当グループの相乗効果を最大限発揮するには「銀行」設立という方法が最良の方法だと判断した次第です。

【3. 新銀行のIYグループにおける戦略的位置付けと意義】

IYグループは、金融サービスの提供にあたり、グループの長年にわたるお客様とのリレーション、グループの持つIT技術等を活用し、ATMネットワークをベースに提携カードサービスならびにグループを超えた様々な企業グループとの提携等を展開することにより、真にお客様のニーズに応え、お客様のための銀行となることを目指します。こうした金融サービスの提供は、お客様のニーズを満たすだけでなく、当該銀行事業の育成は勿論、当グループにおける既存事業の一層の発展につながり、結果としてグループの企業価値ならびに店舗価値を高めることに繋がると確信しております。

1. 既存事業との相乗効果

IYグループでは、グループ店舗にアイワイバンク銀行の金融サービスを導入することで、従来取り組んできたニーズに合わせた商品・サービス提供との相乗効果が生まれるものと考えております。また、お客様への利便性を提供する点から、グループの来店客数、来店頻度の増加、結果としての収益力向上という相乗効果も期待しております。

2. 店舗利便性の向上

IYグループでは、お客様へ物販サービスをご提供する場所にATMを設置することにより、お客様の買い物の利便性を高め、また、今後のアイワイバンク銀行と多くの金融機関との提携によって、出来る限り多くのお客様に利便性を提供できると考えております。

3. カード戦略

現在IYグループでは、ポイントカードやデビットカードの導入等、カード決済機能の拡充について検討を進めております。これら、IYグループのカード戦略の中核にアイワイバンク銀行を位置付け、グループ各社との連携を図りながらシナジー効果を追求してまいります。